

---

# プレスリリース

---

2017年 11月 14日

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所

国立大学法人茨城大学

国立大学法人千葉大学

独立行政法人国立科学博物館

国立大学法人島根大学

有限会社アルプス調査所

国立大学法人神戸大学

復建調査設計株式会社

国立研究開発法人産業技術総合研究所

国立研究開発法人海洋研究開発機構

公立大学法人大阪市立大学

国立大学法人東京学芸大学

千葉県立中央博物館

滋賀県立琵琶湖博物館

国立大学法人九州大学

技研コンサル株式会社

国立大学法人信州大学

文化財調査コンサルタント株式会社

## 国際標準模式地の審査状況について ～地層「千葉セクション」の認定へ向けて～

11月12日、国際地質科学連合（International Union of Geological Sciences、IUGS）の中での作業部会（下部-中部更新統境界作業部会）で、「前期-中期更新世境界」のGSSP候補を選ぶ投票が終了しました。その結果、3つの候補の中から千葉県市原市の地層「千葉セクション」が選出され、IUGS内の上部の委員会に答申されることに決まりました。

「千葉セクション」をGSSPに提案する申請書は、日本の研究チームが今年6月7日に作業部会に提出していました。「千葉セクション」の他には、イタリア南部のモンタルバーノ・イオニコ（Montalbano Jonico）、同じくイタリア南部のヴァレ・デ・マンケ（Valle di Manche）の地層をそれぞれ支持するグループが申請書を提出していました。

作業部会での約3か月の討論期間の後、10月10日からの1カ月間、電子メールにて投票が行われ、その結果、「千葉セクション」が最も多くの票を集め、GSSP候補として上部の委員会に答申されることになりました。

今後は、図3のようなステップで答申を認めるかどうかの審議が行われ、最終的にIUGSの投票で60%以上の得票があれば、「千葉セクション」が前期-中期更新世境界を示すGSSPとなります。GSSPとなった場合、地質時代の中期更新世（約77万年前～約12万6千年前）が、「千葉の時

代」を意味する「チバニアン（Chibanian）」と名付けられます。なお、IUGSの投票は早くても来年以降の見込みです。

詳細は[国立極地研究所のサイト](#)をご覧ください。

国立研究開発法人海洋研究開発機構  
広報部 報道課長 野口 剛